



分館長のひとりごと

最近、若者の間で「親ガチャ」という言葉が使われていて、これはカプセルに入ったおもちゃの自動販売機である「ガチャポン」に起因する造語です。「ガチャポン」は中の商品を選ぶことができないことに関連して、子どもも生まれてくる家庭環境を選ぶことができないというニュアンスで使われているようです。この言葉が生まれた背景には、現代社会は子どもにとって親の影響力がきわめて強い構造であることを意味しています。こうした社会構造を分析した本として、志水宏吉氏の『ペアレントクラシー「親格差時代」の衝撃』が注目されています。この本によると現代の日本は、「二世化」、「サラブレッド化」、「格差化」が顕在化し、「できる層」、「できない層」の差は家庭背景と強く関連していることが述べられています。実はこの指摘は現代に始まったことではなく、教育社会学では1980年代よりフランスの社会学者ピエール・ブルデューにより、「家庭の経済資本」、「文化資本」、「社会関係資本」が子どもの学力、ひいてはその後の人生に大きな影響を与える傾向にあるとし、これは「文化的再生産」として理論化されています。つまり、こうした社会構造を「親ガチャ」という言葉で表現されるようになった背景には、今まで見えなかった他人の生活が、SNSの普及により情報が個別化し、他人の生活環境の細部が見えるようになったことなどが要因の1つとして考えられています。

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

休館日のお知らせ

◀発行▶ 所沢図書館所沢分館
指定管理者：株式会社ヴィアックス

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※○の付いている日が休館日です。
※土日祝日は午後5時までの開館です。

所沢市元町 27 - 1 ☎04-2923-1243

図書館だより No.104 (通巻)

とこぶん通信

2023年4月・5月

★4月～5月 所沢分館イベント情報★

こども映画会 午前10時45分～開場 午前11時～開演

4月9日(日) (アニメ) 20分

『大造じいさんとガン』

4月16日(日) (アニメ) 23分

『銀河の魚』



市民映画会 午後1時45分～開場 午後2時～開演

4月9日(日) 153分 (イギリス)

『ハムレット』1948年

4月16日(日) 127分 (日本)

『一命』2011年

おはなし会 毎月第1・3土曜日 午前10時30分～

4月1日 4月15日

5月6日 5月20日



※映画会は事前予約制です

★蔵書点検を行いました★

2月20日（月）～24日（金）に蔵書点検を行いました。蔵書点検は図書館の本がデータ通りに正しい書架に並んでいるか、不明になっている図書がないか等を確認める作業です。所沢分館には現在、約19万冊の資料があります。その一点一点、バーコードを機械で読み込み、点検しました。長いお休みをいただき、利用者の皆さんには、ご不便をおかけしました。蔵書点検は図書館を快適に使っていただくためにも必要な作業ですので今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



とこぶんとピックス～予約票～

図書館のカウンターや記載台にある予約票を利用したことがありますか。

所沢図書館に所蔵がない本や、これから発売される新刊図書（刊行時期が確定しているものに限る）等を予約票に記入して、提出していただければ、リクエストとして受けつけることができます。ぜひご利用ください。

※ご提供ができない場合もあります。



所沢分館スタッフが選ぶ

☆☆おすすめ本☆☆

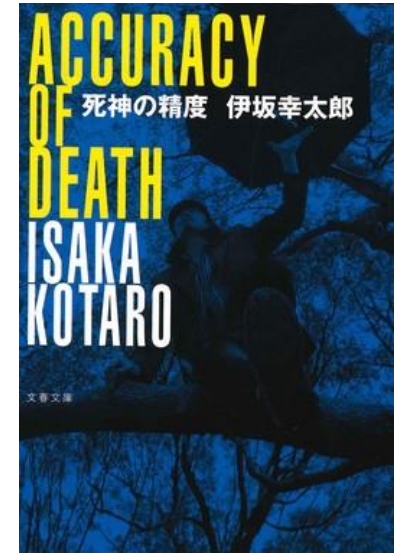
『死神の精度』

伊坂幸太郎/著 文藝春秋

死神である主人公は7日間の調査で対象の生死を判断します。そんな彼が仕事をするときには必ず雨が降って…。

音楽好きの死神の、6人の人間を調査するお話です。1話1話は短編ですが少しずつ繋がりがありすべて読み切るとそこが繋がっているのか、とハッとさせられます。

続編に『死神の浮力』があり、所沢図書館で所蔵していますので、合わせて読んでみてはいかがでしょうか。



『死神の精度』 伊坂幸太郎 著 文藝春秋
文藝春秋のHPより画像引用



『ある行旅死亡人の物語』 毎日新聞出版社
社HPより画像引用

『ある行旅死亡人の物語』

武田惇志/著 伊藤亜衣/著 毎日新聞出版社

アパートで亡くなっていた高齢女性。身元もはっきりせず、3400万円のお金を持ちながら、周囲と関わりを避けるように40年間、同じアパートに住んでいた。行旅死亡人のデータベースで、女性のことを知った新聞記者が興味を持ち、取材をはじめめる。彼女が一体何者で、大金を持ちながらなぜこの暮らしを選んだのか。ノンフィクションですが、ミステリー小説のような面白さ。調べれば調べる程に深まっていく謎。怖さがありつつも、生きていくことや人の記憶について考えさせられる一冊です。